

令和2年度 医療的ケア部会

〈活動概要〉

医療的ケアのある障害児の支援学校卒業後の進路について、計画的・長期的に道筋を作っていけるようにすることと、医療的ケアある障害児者の支援について、医療・障害福祉関係者へ問題周知と理解を深めることについて検討を行っています。

医療機関、障害福祉事業所、支援学校などから構成したメンバーにて、今年度は7月から2ヶ月に1回のペースで会議（1月、3月はWEB会議）を行っています。

9月より新たに医療法人大和英寿会「放課後等デイサービスほほえみ」に部会メンバーとして加わっていただいています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で全構成員が集うことが難しい状況ではありますが、支援学校からは今年度以降の高等部卒業予定生徒の状況報告を、福祉事業所からは現在利用されている医療的ケアのある利用者の状況報告及び次年度以降の受け入れ可能人数の報告を、医療機関からは新型コロナウイルスを始めとする感染症の状況及び錯綜する情報の中でどのように対応していくか、また、各機関の報告について利用者対応のアドバイスをさせていただいたり情報共有を主に行いました。

〈現状と課題〉

現在、宇治支援学校の在校生には医療的ケアが必要な方がおられ、高等部卒業後の生活には生活介護をはじめとする医療的ケアに対応した障害福祉の資源が必要となります。地域生活されている障害者にも医療的ケアが必要な方がおられるので、この先、今ある事業所が全て受け入れることができる保証はなく、新たな受け入れ事業所ができるのもわからないのが現状といえます。

小児科から内科への移行の際、児童と成人では対応の仕方も異なるため、18歳以降小児科から引き継いだ内科の医師が介護者が支援する指示書を書きなれていないことと同様に、新たに医療的ケアの支援に参入するにしても、多種の医療的ケアの必要な方もおられ更なる専門性が必要となってきます。

医療的ケア児の保護者より卒業後の通所先について、「児童の頃から同一の法人で見てもらえるような資源の確保をしてほしい」旨の意見もあり、まだまだご家族、支援側の両方に不安と課題があるのが実際です。

医療的ケアが必要な方の家族に急変があった場合の対応など、急な受け止めが福祉・医療ともに難しいという課題も以前から残っています。

昨年度に講演いただいた、神戸市にあるヘルパーGOGOの武政千尋様とも連絡を取り合っていますが、4月には新たに6名を受け入れるので、今の家屋では狭くて対応が難しくなるため新たな場所を確保したとのこと。今ある事業所が何とか対応しようという基で成り立っているイメージがありました。

制度面において更なる充実をしていただくためにも、発信していかなければなりません。